

山ぼうし

山ぼうしは「立志の樹」といわれ、本校正門脇に植樹されており、花も実も 蒼天に立つ 山ぼうしの碑（初代 PTA 会長盛合聡の揮毫）がある。



第39号 平成20年 6月30日

宮古の未来は掛かって宮工生の双肩にあり 校長 兼 平 栄 補

少子高齢化社会が急速に進む中、地域産業の発展・興隆のためには、活力を有する労働力の確保が不可欠の要件である。すなわち、若年労働者の地元定着が重要かつ喫緊の課題である。

図1は、今春宮古・下閉伊地区の高等学校卒業生の動向である。中学卒業時から計算すると 12.4%しか地元に残らなかったことになる。

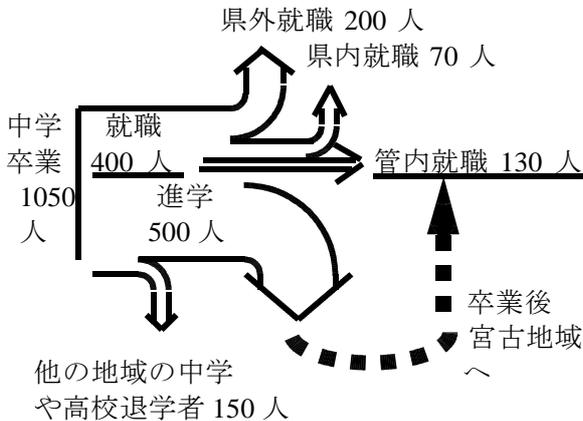


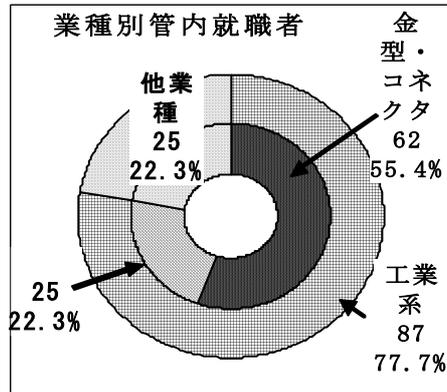
図1 平成20年3月宮古地域の高等学校を卒業した生徒の動向

進学した500名のうち、何名が将来宮古地域に戻ってくるのであろうか。あまり期待できない現状である。

また、少子化により10年後には中学校卒業生は800名程になり、さらに、15年後には約650名になる。現状のように人材流出が続けば、やがて地域の産業を支える若者が宮古に居なくなる。

このような状況下、管内に残った130名の

うち、学校斡旋により就職した者は112名であったが、本校からは40名が管内に就職している。(19年3月卒業生も41名) 1/3が本校の卒業生であり、特に男子に限ると2/3が本校卒業生である。他校出身者も含めた管内就職者のうち、3/4は工業系の仕事に就き、特に金型・コネクタ産業へは55%である。宮古地域の求人は工業が中心である。



宮古地域雇用対策協議会では、優良勤労青少年表彰を実施し、平成20年2月9名の若者が表彰された(勤続3~4年)が、男子6名の内、4名が宮古工業高等学校の卒業生であった。宮古の産業を立派に支えているのである。

宮古の未来は、もっぱら本校卒業生が担うことになる。できるだけ優秀な人材を供給し、宮古の産業を振興させたい。本校の果たす役割は重大であり、かかる期待も大きいのである。

7月行事予定

- | | | | |
|----------------|----------------------|--|--------|
| 7月 1日(火) | 求人受付開始 | | |
| 3日(木) ~ | 8日(火) 三者面談
(午前授業) | 7月25日(金) | 授業納め式 |
| 3日(木) | 工業系高校生徒会連絡協議会 | 28日(月) | 一日体験入学 |
| 4日(金) | 機械製図検定 | | |
| 9日(水) | 母親会員交流会 | | |
| 10日(木) ~11日(金) | 東北高P連(秋田市) | ※ 高校野球は7月11日 宮古高校と対戦です。
(県営球場、13:40 試合開始予定) | |
| 11日(金) | CAD検定 | | |



《校内球技大会》

第1期の定期試験も終わった6月18日(水)、19日(木)の2日間にわたり、校内球技大会が実施されました。天候のほうも初日は晴れ、球技大会には最適の一日となりました。2日目は午後から天気が崩れる予報でしたが、なんとか雨にうたれることなく閉会式まで終えることができました。今回の参加チームは全校9クラスに職員チームを加えた計10チーム、競技のほうは事前に行ったアンケート結果から「野球」、「サッカー」、「バレー」、「卓球」、「バスケットボール」、「バドミントン」の6競技を行いました。今回の球技大会では、運営を行った生徒会執行部、各種目で審判を快く引き受けてくれた各部部員さん、そして各競技で熱いプレーを見せてくれた生徒たち、みんなの協力のおかげで無事成功することができました。本当にありがとうございました。



<大会結果>

総合優勝は「電気電子科3年チーム(192pt)」初日からのトップの座を維持し、6種目中2種目優勝、3種目が3位以内

	1位	2位	3位
バレー	F3	E3	E2
バスケット	M3	E3	F3
卓球	E3	E1	M1
野球	T	F1	E3 E1
サッカー	M2	F3	M1 E2
バドミントン	E3	T	M2 F3



という成績を残しての優勝でした。準優勝は「建築設備科3年チーム(156pt)」、3位「職員チーム(156pt)」となりました。来年度も熱い戦いを期待しています!!!

快挙！高総体柔道個人戦優勝・インターハイ出場

6月6日から8日まで久慈市民体育館で開催された第60回県高等学校総合体育大会柔道競技(男子個人試合100kg超級)に、本校機械科3年の 昆野 卓浩 君が出場し、見事優勝を果たした。昨年の新人大会個人戦で3位入賞に留まった昆野選手は、高総体ではシード選手として出場した。初戦から準決勝まで裏投げや小外刈、上四方固を駆使し、4分間の試合時間中すべて2分間以内に一本勝ちという安定した試合をし決勝戦へ進出した。準決勝で左ひじを軽く痛めてしまい、万全の



態勢とはいえない状態で臨んだ決勝戦だったが、盛岡中央高校の長根選手と対戦し、開始1分30秒頃に、内股をかけてきた長根選手の攻撃をかわし、裏投で見事一本勝ちを決めた。身長170cm弱の昆野選手が180cm以上ある体格の良い長根選手を豪快に投げての一本勝ちに、会場内は大きな歓声と賞賛の拍手で包まれた。高総体県大会での優勝は、本校柔道部創設以来初の快挙であり、6月28日～29日に秋田県秋田市の秋田県営武道館で開催される東北柔道大会、そして8月5日より埼玉県上尾市の埼玉県立武道館で開催されるインターハイへの出場も勝ち取った。本校でのインターハイ出場は、昭和53・54年に陸上部の岩脇秀弘選手がやり投種目に出場して以来2人目で、約30年ぶりの快挙となった。本校柔道部は現在10名程度という少人数での部活動ではあるが、昨年



高総体県大会個人試合準優勝の成ヶ澤光選手に次ぐ東北大会出場、そして初のインターハイ出場という2年続けての好成績を残すことができ、先輩たちに次ぐ結果が残せるよう練習にも熱が入っている。今大会では圧勝だった昆野選手も、自分の試合を振り返り、更に問題点を見つけて課題を設定し、今後の東北大会、インターハイへ向けて練習に励んでいる。